令和７年度水道事業会計決算について

水道は市民生活に直結するライフラインであり、都市の発展を支えるインフラとしても重要な役割を担っています。

経営状況は、人口減少により年々厳しくなっていますが、安全で良質な水道水を安定してお届けできるよう水道施設の耐震化をさらに進め、給水サービスの向上に努めていきます。

給水状況

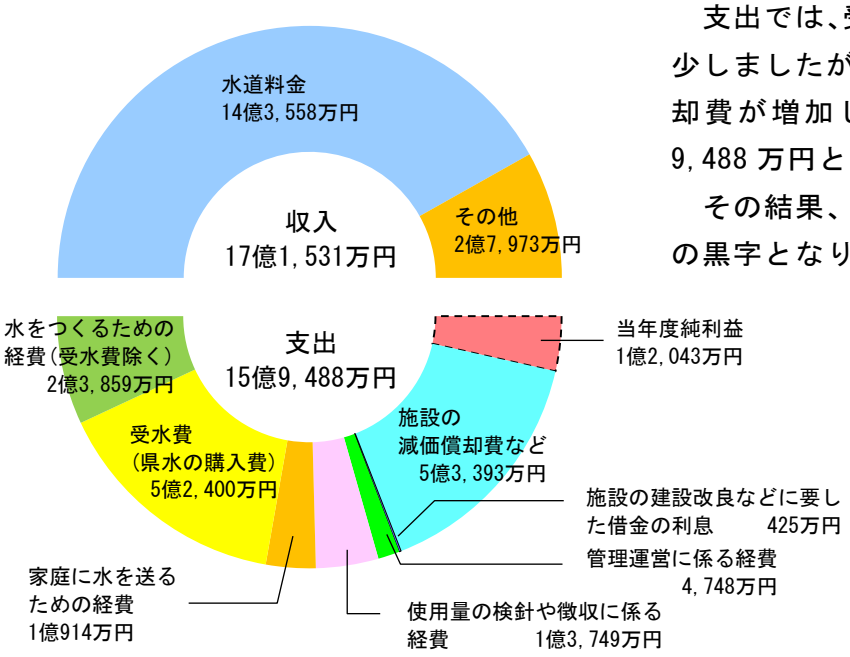
昨年度と比べ、水を送った件数は 12 件減少し、年間の給水量は 130,400m3 減少、水を使用した人数も 761 人減少しました。

官公庁用や営業用への給水量が増加した一方で、人口減少や節水意識の向上などにより一般家庭への給水量が引き続き減少しており、この傾向は今後も続くものと思われます。

項目		令和７年度	令和６年度	増減	比率(%)
行政区域内人口（人）	A	71,974	72,738	△ 764	98.9
給水区域内人口（人）	B	71,919	72,680	△ 761	99.0
年度末給水人口（人）	C	71,886	72,647	△ 761	99.0
年度末給水件数（件）		34,818	34,830	△ 12	100.0
行政区域内普及率（%）	C/A	99.9	99.9	0.0	100.0
給水区域内普及率（%）	C/B	99.9	99.9	0.0	100.0
年間給水量（m3）		9,065,070	9,195,470	△ 130,400	98.6

経営活動に伴う収入と支出（損益収支のため消費税等抜き表示）

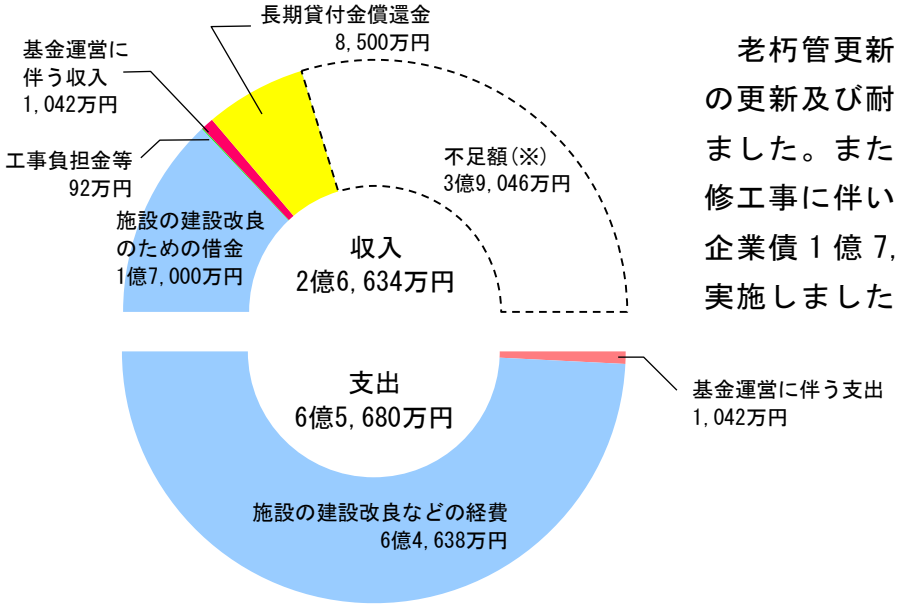
収入では、一般家庭用や工場用などの給水量の減少に伴い水道料金が 1,539 万円減少したことなどにより、総額 17 億 1,531 万円となりました。



支出では、受水費・修繕費などが減少しましたが、委託料や固定資産除却費が増加したため、総額 15 億 9,488 万円となりました。

その結果、収支は 1 億 2,043 万円の黒字となりました。

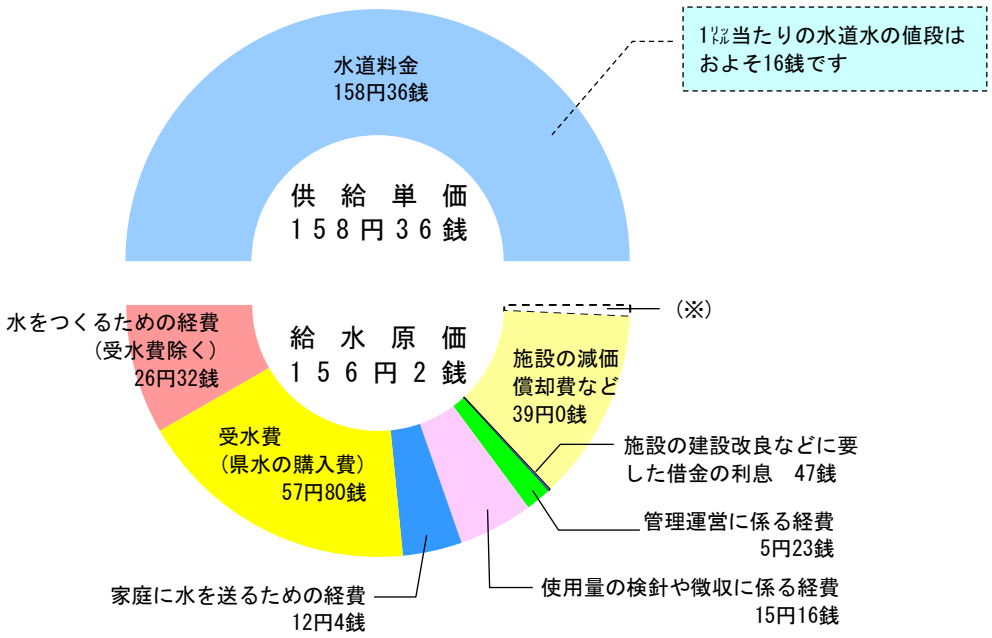
施設整備に要する収入と支出（資本収支のため消費税等込み表示）



老朽管更新工事に併せた主要管路の更新及び耐震化を計画的に実施しました。また、自由が丘配水池の改修工事に伴い建設改良費に充当する企業債１億7,000万円の借り入れを実施しました。

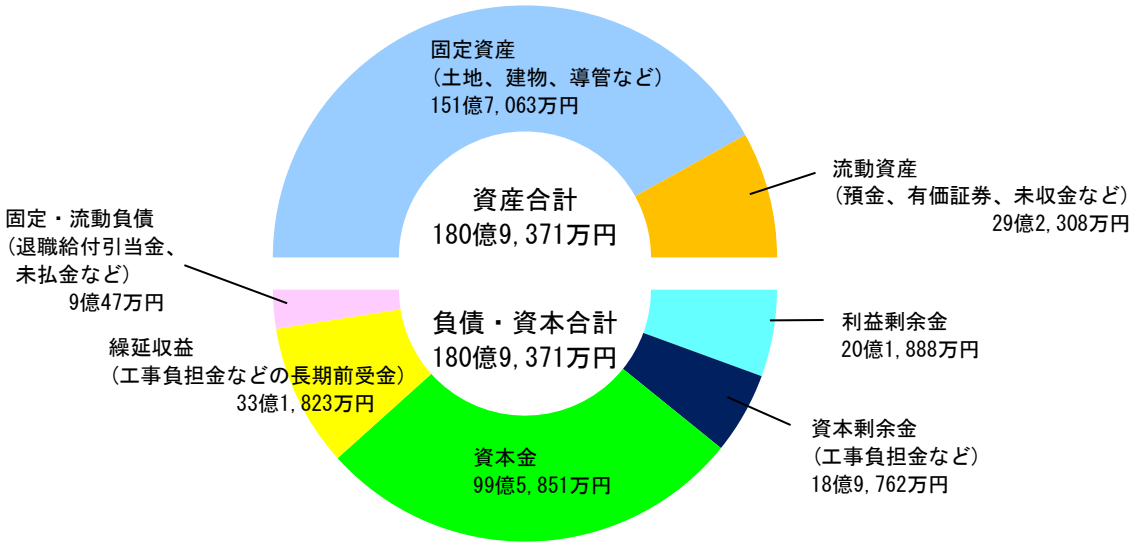
※不足額は施設の減価償却費などの内部留保資金などで補てんしました。

供給単価と給水原価（1m3(=1,000ﾘｯﾄﾙ)当たり、消費税等抜き表示）



※ 本年度は供給単価が給水原価を上回り、料金収入で給水に必要な費用が賄われました。

貸借対照表（令和8年3月31日現在）

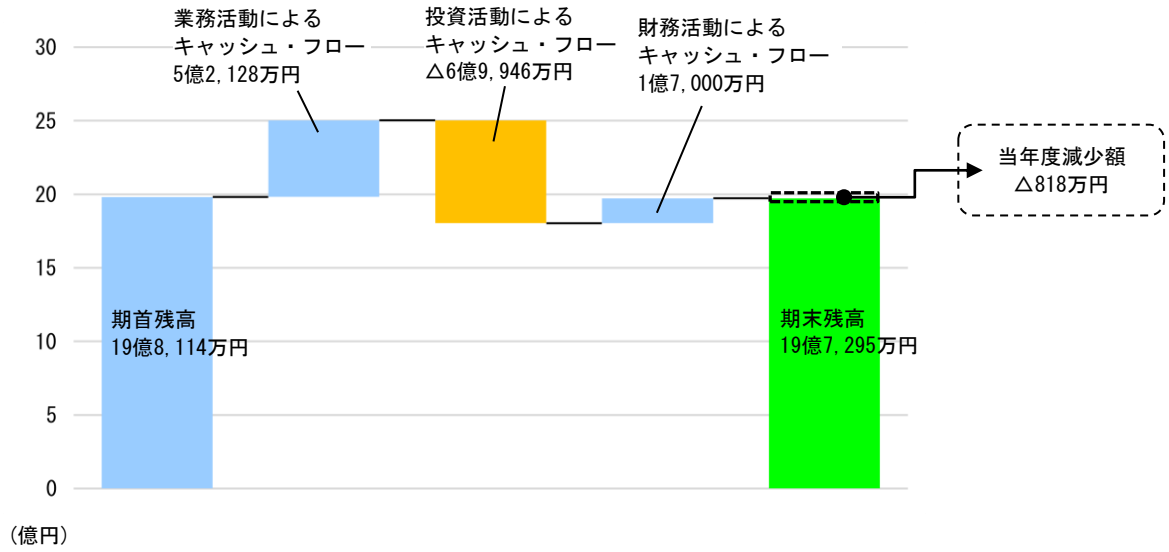


キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローは現金（キャッシュ）の流れや増減を把握するものです。

「業務活動」によりキャッシュを増やし、設備投資などの「投資活動」や、借り入れた借金の返済などの「財務活動」を行うことでキャッシュが減少します。

本年度は、自由が丘配水池更新工事の完成等に伴い 818 万円のキャッシュが減少し、本年度末のキャッシュ残高は 19 億 7,295 万円となりました。



※業務活動：投資活動及び財務活動以外の通常の事業活動によるもの

※投資活動：固定資産の取得や売却、投資資産の取得や売却など

※財務活動：資金の調達や返済